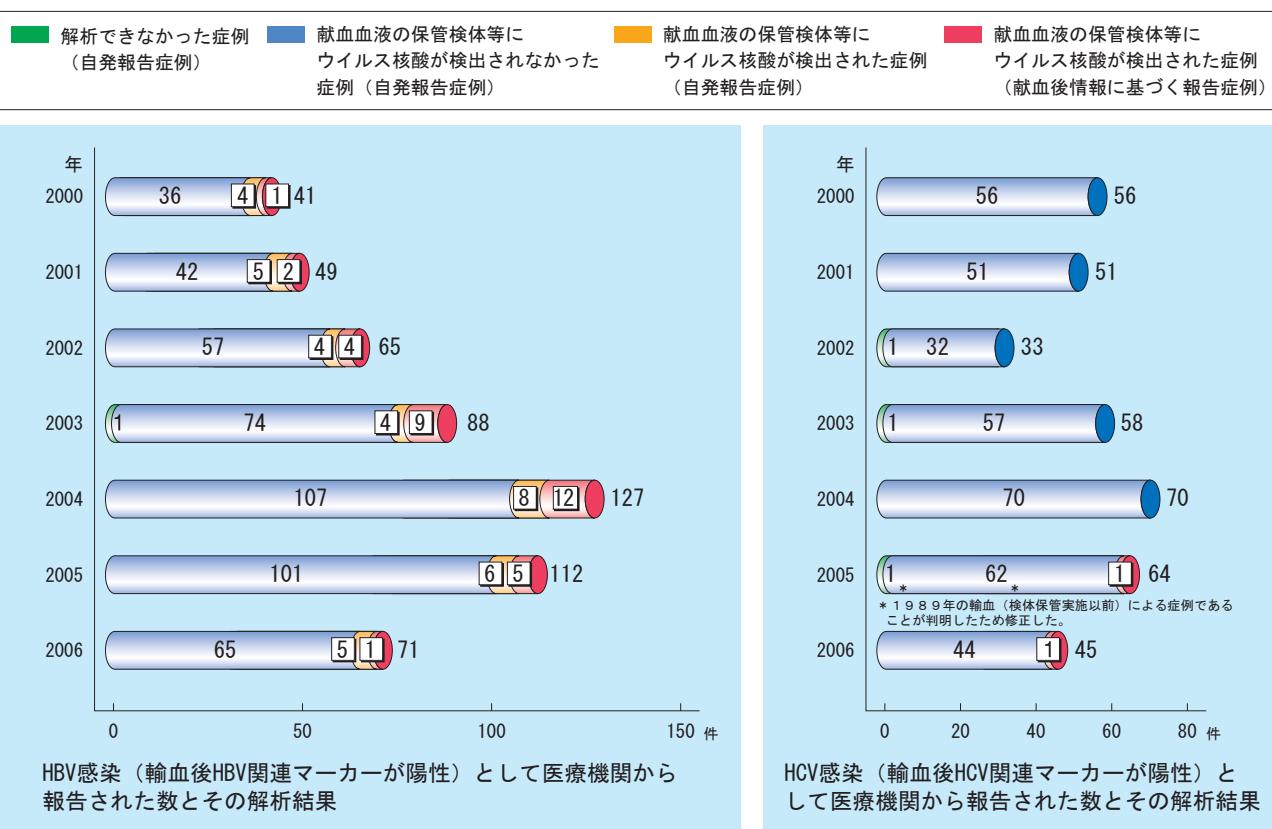


輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 -2006年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2006年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出されたものは、HBV 6例、HCV 1例、HEV 1例、ヒトパルボウイルスB19 1例でした。また、細菌感染が疑われた症例の中で、当該製剤から *Yersinia enterocolitica* が2例、*Staphylococcus aureus**が1例検出されました。

* 輸血情報0609-101の掲載症例

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例及び献血後情報への対応症例の件数とその解析結果【HBV・HCV】 -2000～2006



症例概要（献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例）-2006年-

【HBV】

○自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 〔 〕：輸血までの期間	輸血後の検査結果※※ 〔 〕：輸血からの期間	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
1	大腿骨頸部骨折	Ir- RC-M・A・P (2005. 7)	70代	女	HBs抗原 - [2日]	HBs抗原 + [27週]	134	28週	+	+	-	+
2	大動脈弁逆流	FFP (2005. 1)	70代	男	HBs抗原 - [17週]	HBs抗原 + [30週]	1788	31週	+	+	-	+
3	口腔底癌	FFP (2005. 4)	60代	男	HBs抗原 - [4週]	HBs抗原 + [26週]	2488	26週	+	+	-	+
4	両変形性膝関節症	Ir- RC-M・A・P (2006. 1)	80代	女	HBs抗原 - [3週]	HBs抗原 + [29週]	666	25週	+	+	-	+
5	前置胎盤 子宮破裂	FFP (2005. 9)	40代	女	HBV DNA - [1日]	HBV DNA + [15週]	42	19週	+	+	-	+

※ 保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類

※※ 医療機関での検査結果（陽性確認日）

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 []:輸血までの期間	輸血後の検査結果*** []:輸血からの期間	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
6	急性骨髓性 白血病	Ir- PC (2005.11)	60代	女	HBs抗原 - [0日]	HBV DNA + [14週]	124	40週	+	+	-	-

【HCV】

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 []:輸血までの期間	輸血後の検査結果*** []:輸血からの期間	ALT		経過	
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HCV RNA	HCV 抗体
1	常位胎盤 早期剥離	FFP (2003.11)	30代	女	HCV抗体 - [0日]	HCV抗体 + [126週]	追跡データがない症例		+	+

【HEV】

●献血血液の研究的NAT陽性情報に基づく調査により医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 []:輸血までの期間	輸血後の検査結果 []:輸血からの期間	ALT		経過	
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HEV RNA	HEV 抗体
1	狭心症	RC-M・A・P (2005.12)	50代	男	HEV RNA - [1日]	HEV RNA + [4週]	61	6週	-	IgG + IgM -

*上記症例は、輸血4週後にウイルスが検出され、9週後に検出限界以下となった。また、IgG抗体及びIgM抗体は輸血8週後に陽転を確認し、輸血18週後にIgM抗体は陰性となった。

【ヒトパルボウイルスB19】

●自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 []:輸血までの期間	輸血後の検査結果 []:輸血からの期間	献血者情報	
							B19 DNA	B19 抗体
1	直腸癌	Ir-RC-M・A・P (2006.3)	50代	男	B19抗体IgM - [1日]	B19抗体IgM + [3週]	+	IgG + IgM +

*上記症例は、発熱などの症状が認められたが、その後回復している。

*上記症例の患者検体及び保管検体から検出されたウイルスの相同性（一部の領域）を確認した結果、すべて一致した。

なお、ヒトパルボウイルスB19は、一般的に飛沫等により感染することから輸血以外の可能性も考えられる。

【細菌】

●自発報告：輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	採血後 日数	年齢	性別	輸血後の検査結果		症状		患者 転帰
						輸血用血液製剤	患者血液***	主訴	発現時間 (輸血開始後)	
1	骨髓異形成 症候群	RC-M・A・P (2006.1)	14日目	80代	男	<i>Yersinia enterocolitica</i>	陰性	発熱 悪寒 低酸素血症	75分	軽快
2*	再生不良性 貧血	PC (2006.4)	3日目	70代	男	<i>Staphylococcus aureus</i>	<i>Staphylococcus aureus</i>	発熱 悪寒 白血球減少	145分	死亡
3	慢性腎不全	Ir- RC-M・A・P (2006.7)	21日目	70代	男	<i>Yersinia enterocolitica</i>	陰性	発熱 呼吸困難 血圧低下	30分	軽快

*輸血情報0609-101参照

※保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類

***医療機関での検査結果(陽性確認日)

核酸増幅検査(NAT)の実施状況【1999年7月～2007年5月】

献血血液(HBs抗原検査陰性、HBC抗体検査陰性、HCV抗体検査陰性、HIV-1及びHIV-2抗体検査陰性、ALT正常のもの)に対するNAT陽性数は次の通りです。

検体プールサイズ	検査対象数	NAT陽性数(頻度)		
		HBV	HCV	HIV
500(1999年7月～2000年1月)	2,140,207	19(約1/11万)	8(約1/27万)	0(—)
50(2000年2月～2004年8月)	24,702,784	473(約1/5万)	72(約1/34万)	8(約1/309万)
20(2004年8月～2007年5月)	13,748,971	267(約1/5万)	24(約1/57万)	7(約1/196万)

輸血用血液製剤または血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)等の提供をお願いします。なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

《発行元》
日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課
〒105-8521 東京都港区芝大門一丁目1番3号
URL <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>
*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者へお願いいたします。